協議事項24

小規模特認校について

小規模特認校について、次のとおり提案する。

令和８年11月９日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長　　竹森　永敏

小規模特認校について

１．現状

現在、神戸市内では六甲山小学校と藍那小学校が小規模特認校としている。

両校とも特色ある立地条件や教育資源を生かしながら、学校、地域、保護者の協力・連携のもと学校運営を行うことを前提に制度を導入。

２．当該校の在籍人数

（１）六甲山小学校

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	合計
総児童数	8	11	12	7	12	9	59
うち域外	8	8	9	6	9	7	47

（２）藍那小学校

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	合計
総児童数	7	8	6	6	11	6	44
うち域外	7	8	6	6	11	6	44

３．小規模特認校の位置づけ

（１）文部科学省の考え方

「従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認める」特認校制度による通学区域制度の弾力的運用のひとつ。特色ある学校づくりや保護者の学校選択権を重視したもの。

（２）神戸市における小規模特認校

大規模校にはない機動性や柔軟性を最大限に生かし、両校の持つ地域の自然環境や文化を資源として活用し、教育課程全体を通じた継続的・系統的な学びを展開する学校

（３）両校のコンセプト

①六甲山小学校「山が教室」

自然環境、防災、気候、観光、山上文化等を題材とした探究的な学びを展開

②藍那小学校「里山が教室」

棚田、古道、歴史文化、地域コミュニティ等を題材とした探究的な学びを展開

４．現在の取組

（１）六甲山小学校

全山縦走（左上）、六甲山牧場に乳しぼり体験（右上）等の実施、児童がおこした火を使った火入れ式（右下、左下）など六甲山フィールドを生かした活動を行っています。






（２）藍那小学校

校内でのデイキャンプ（左上）やしめ縄づくり（右上）、里山フィールドを生かした田植え（左下）、保全活動など里山という立地ならではの活動を行っています。




